

日添協・愛知支部

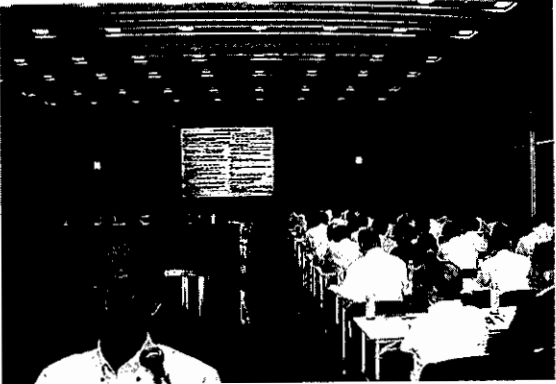
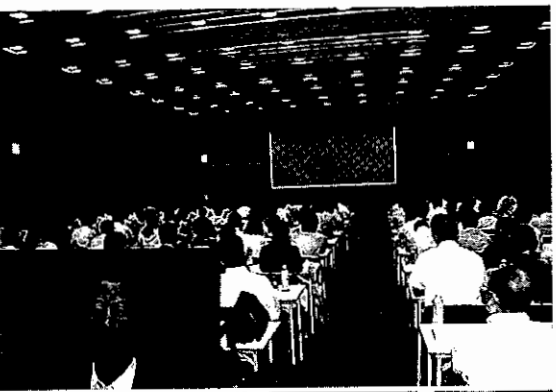
特別研修会に110余名

食品添加物の全国団体日本食品添加物協会（JAF）傘下の愛知支部（清水研市部長、事務局、テック（株）社長・事務局、名古屋市中区新道）では、7月13日（水）午後1時、名古屋市中区名駅JR名古屋駅前・愛知県産業労働センター（ウインクあ東）5階小ホールに於いて「食品添加物特別研修会」を開催、同協会員、一般合わせて117名が

基調講演と食品添加物の

最新情報を3テーマで

冒頭挨拶に立った服部前支部長は「本研修会に先立って開催された当支部第32回通常総会」を以って支部長を退任する事となり清水新支部長体制が発足、不肖にとつて本日は大変特別な日となつた。本日も総勢117名のご出席を頂き、何時もながらの温かいご支援に



き試行錯誤しながら新たな試み、改革を進めて全く新しい体制を作り上げ、改革を進める事が出来たと自負している。当支部の運営について皆様方にはご不便をお掛けし至らない点も多々あったとは思いますが、それ等を一層改善、努力して今後の支部運営に役立てて行きたいと考えている。

本日よりスタートした清水新支部長、それを支える3名の副支部長の新体制は全員が50代と言ふ事では脂の乗り切つたばかりゆえ、今後益々支部運営を積極的、精力的に展開されるものと大きな期待を寄せている所で、今回もこの様に100名を超える皆様方にご参加頂いている事を見ると、後継にバトンを繋げる絶好の時期だとも思っている。

平成20年に支部長に就任して以来4期8年間務めさせて頂き、その間年2回づつの研修会を開催して来たが、その履歴を見ると8年間でほぼ2,000名に近い皆様方にご参加、受講して頂くと共に、色々とご指導を頂

を述べ、清水新支部長も「午前中に開催された支部総会で服部前支部長から職を引継ぐ事となった。食品添加物の販売に携わる者の一員として、食品添加物の安全性、重要性について基礎教育セミナーや講習会を通じて会員、一般の皆様へ正しい情報をタイムリーにお届けし、惹いてはそれが食品業界の発展に繋がるような活動を展開して行きたいと思つている。

今年10月28日に食品添加物の表示に関する特別研修会の開催を計画している。今までは別別研修会の開催を計画している。今までは別別研修会の開催を計画している。今までは別別研修会の開催を計画している。

形となつていたが、今年表示に特化した特別研修会を開催する事とし、同講座が加わる事で4年1タームの研修サイクルとなる。同講座は午後5時の開催ゆえ今まで以上に参加し易いと感じているので是非揮つてご参加頂きたい。今後共、支部活動にご理解、ご協力をお願い申し上げます。」と

新任の挨拶を述べた。更に（一社）日本食品添加物協会（本部）上田専務理事も「食の安全、安心への関心は依然として高いものがあり、高承承の様に昨年は各種食品への異物混入等の報道が日刊紙上を賑わせ、また本年初には廃棄食品の不正販売が盛んに報道されるなど食に係る企業にとつては二層のコンプライア

Nや中東の規制状況についてご紹介させて頂く。当協会は、食品添加物事業者だけでなく、食品の製造、販売携わる事業者の方々も対象に新規をスタート。

ネガティブ情報先行だが

科学的根拠で有用性を

第一部「食品添加物のリスクと消費者の誤解」をテーマとした鈴木医療科学大学・長村洋一副学理事は「我が国の高齢者1人当りの平均医療費は年間93万1,000円となつており、健康の為に食と運動は切り離せない。その中で適正な食を提供する為には食品添加物又キの食生活は考えられない」と前置きし「冷静に判断しなければならぬ事②食品添加物の安全性確保の取組み③微生物が死んでも人間には安全な保存料④保存料が世の中に果たす役割⑤美味しいと感じる事が人間に及ぼす効果⑥上手な添加物の使用は国民の健康の切り札の解

日本一、愛知の喫茶店

異論適論

愛知県には「喫茶店文化」がある...と第2位である。顧客が消費する1ヶ月の喫茶店代は全国平均が503円。これに対して愛知県は964円で平均の1.9倍の最高額である。2位は隣接する岐阜県の945円で、何れも東京都の753円や神奈川県681円、大阪府の584円を大きく引き離している。人口1,000人当りの喫茶店業員数は、愛知県は5.38人で、東京都の5.09人や大阪府の4.33人より多い。愛知県のモーニングサービスは日本一と言われるように、サービスも素晴らしいものがある。資料は「あいちばん」。

【大橋 隆士】